



発行日：令和3年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第2回市民部会まとめの会を開催しました！

市民部会まとめの会では、今年度の市民部会の取り組みのふりかえりと、次年度に向けた目標（活動計画）設定について意見交換を行いました。今年度は、バスツアーと勉強会の具体的な計画を策定しました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大状況から、年度内の実施は難しいと判断し、再検討することにしました。



日時：令和2年12月9日（水）14:00～16:00

会議場所：豊田市崇化館交流館2階 大会議室

参加者：10名（内オンライン参加1名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. 今年度のふりかえりについて



今年度の課題である流域連携の取り組みとして、バスツアーと勉強会の開催に向けた計画を行いました。また、流域連携イベントの「三河湾大感謝祭」における情報発信手法について検討しました。

【バスツアー】

9月に実施予定とし、視察地、視察行程など具体的なスケジュールを計画しました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大状況から今年度の実施は見送り、次年度以降の実施で再検討することを決定しました。

【勉強会】

外部への情報発信を目的に、マイクロプラスチックとネオニコチノイド系農薬の2テーマで勉強会の実施を計画しました。勉強会は、次年度の実施で検討することを決定しました。

【流域連携イベント】

11月1日に開催の第7回三河湾大感謝祭に流域圏懇談会として参加する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で大感謝祭の中止が決定されたことから、今回の参加は見送りとしました。

2. 次年度に向けた目標（活動計画）設定について



バスツアーと勉強会の次年度の開催に向け、話し合いを行い、以下のとおり計画を立てました。

【バスツアー】

①予定日時：令和3年6月の平日

②参加対象者：矢作川流域圏懇談会のメンバー

③スケジュール：今年度決定した内容をもとに再調整する

【勉強会】～マイクロプラスチックとネオニコチノイド系農薬～

①予定日時：1回目⇒令和3年7～8月の土日

②参加対象者：矢作川流域圏懇談会メンバーと一般の市民など

2回目⇒令和3年9～10月の土日

③情報発信方法：今後具体化していく

3. その他



勉強会の情報発信として、チラシ作成の計画について話し合いました。勉強会のチラシは、1～3月の間で素案の作成を目標とし、令和3年1月13日に、第1回目のチラシ作成会議を市民部会として実施することにしました。また、2月に実施予定の全体会議における報告内容などについて確認しました。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●今年度ふりかえりについて

- ・今年度は、計画していた活動がコロナの影響で延期になったという報告となる。(光岡)
- ・今年度決めてきたことを、来年度、再来年度にもっていくことでよいと思う。(高橋)

●次年度に向けた目標(活動計画)設定について

【次年度の活動目標について】

- ・次年度の活動目標は、バスツアーの実施と勉強会の開催の2つを設定する。(光岡)

【バスツアーの活動計画について】

- ・事務局の体制が整う6月以降の平日での実施ということで検討をお願いしたい。(事務局)
 - ▶体制が整った上で、できるだけ早い段階で実施することで進めていく。(光岡)
 - ▶6月頃だと、新型コロナウイルスも収束している可能性がある。(高橋)
- ・6月にバスツアーの実施という方向で進めていく。6月末あたりが可能性としては高い。(光岡)

【勉強会の活動計画について】

- ・勉強会は、子どもが休みとなる夏休み期間での開催がよい。(高橋)
- ・ネオニコチノイド系農薬が散布される時期はいつなのか。(山本孝)
 - ▶水田の場合、田植え前の育苗箱に散布するので、4~5月頃だと思う。(松沢)
- ・農協が農薬を斡旋するが、JAなどはネオニコチノイド系農薬を排除していると思う。むしろ、農業店舗で購入している個人農家への注意喚起が必要かもしれない。(光岡)
- ・カメムシの防除にはネオニコチノイド系農薬が使用されている。(山本薫)
 - ▶ネオニコチノイド系農薬が現在どのように使用されているのかについて調べ、整理したい。(松沢)
- ・6月にバスツアーを実施することから、1回目の勉強会は夏休みの7~8月、2回目の勉強会は9月~10月になるだろう。マイクロプラスチックとネオニコチノイド系農薬の2テーマで振り分ける。(光岡)
- ・勉強会は農薬散布の前に実施したい。農協の販売促進の対象となる前にやれば、使用抑制効果大きい。(山本孝)
 - ▶即時的な使用抑制効果は、期待できないと思う。(光岡)
 - ▶方向を転換させていくには、まず、農協や農業関係者の理解を深めていくことが重要と考える。(山本薫)
 - ▶西三河生態系ネットワークの農協は、環境への関心が高い。生態系ネットワークと連携して進めるとよい。(高橋)
 - ▶一種の啓発活動となることから、継続し、何度か積み重ねていかないと浸透していかないとと思う。(光岡)
- ・勉強会は夏休みも視野に入れ、具体的な日程設定を進めていく。また、流域圏懇談会はもちろん、懇談会に入っていない方々に向けても情報発信し、勉強会に参加いただくような手順を踏んでいく。(光岡)

●その他

勉強会のチラシ作成について

<チラシを作成するための体制>

- ・チラシの基本となるかたちは、市民部会のメンバーで作成していきたい。(光岡)
- ・原案や企画などは、市民部会のメンバー全員で話し合うほうが、矢作川流域圏らしいものが完成すると思う。(野田)
- ・実行委員会のようなチームを立ち上げて、チラシの印刷や情報発信を進めていくとよい。(山本薫)

<チラシ作成について>

- ・チラシの原案は1~3月の間で作成しておくほうがよい。6月にはチラシができている必要がある。(山本薫)
- ・チラシ作成には企画が重要になる。募集方法、締め切りの設定なども決めていく必要がある。(野田)
- ・デザインにあまりこだわらなくてもよい。趣旨がわかる文章を表示するなど表現が重要と思う。(山本孝)
- ・勉強会で市民に伝えたいことが明確になれば、原案の作成にはそう時間はかからないと思う。(松沢)

<チラシの配布方法、情報発信について>

- ・豊田市での開催となるので、豊田市の力を借りて交流館で配布する、自治区を通じて配布するなどがよい。(光岡)
- ・チラシの配布先は、各懇談会メンバーが所属している団体や、農協などが想定される。(光岡)
- ・佐久島のように、SNSでの情報発信も必要である。また、生態系ネットワークを通すと、情報発信効果が高いと思う。(高橋)
- ・ネオニコチノイドもマイクロプラスチックも農業に関係するので、市民の関心は高いと思う。(野田)

<今後の作業について>

- ・チラシ作成、情報発信方法についての会議は、1~3月に行う。3月には、ある程度完成したチラシを作成したい。1月13日の14時から1回目の会議を開く。チラシ作成の担当は市民部会、責任者は市民部会座長とする。(光岡)

今後の予定

■市民部会「チラシ作成会議」

日時：令和3年1月13日(水) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館 4階 視聴覚室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129



*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

